

# 舞踊関係文献目録 一昭和52年一

\*この目録は、昭和52年度に発行された舞踊関係の日本語文献(単行本、雑誌・紀要論文)を収録したものである。

\*便宜上、次の分類に従った。

総記・芸術(一)・芸術(二)・民俗・教育

このうち、芸術は舞台舞踊、民俗はそれ以外の舞踊とし、芸術(一)は主として日本の舞踊、(二)は主として洋舞とした。

\*各項においては、単行本、雑誌の特集、雑誌・紀要論文の順に配列した。

\*雑誌・紀要の号数は洋数字、巻号は0-0とし、月刊誌は0月とした。

\*この目録は、毎年刊行の本誌に前年度分を掲載の予定である。遺漏も多いと思われるので大方の御教示を願ひ、補遺として次号以下に追加していきたい。

(石井一躬)

## <総記>

身体の現象学 石福恒雄 金剛出版

神霊舞踏一神々との出会い イメージの博物誌2

M・ヴォージン、市川雅訳 平凡社

世界の踊り 白浜研一郎 カイガイ出版

日本舞踊辞典 郡司正勝編 東京堂出版

舞踊年鑑(1)1977 全日本舞踊連盟編 全日本舞踊連盟

児童舞踊七十年史 社団法人全日本児童舞踊協会

1978日本みんなよう読本 民謡・民踊 日本フォークロア協会編 桜楓社

レクリエーション社交ダンス レクリエーションシリーズ9 東京都レクリエーション連盟 成美堂出版

舞踊認知の意味論的研究(その二)一琉球舞踊の情報量一

金城光子・大城宜武 琉球大学教育学部紀要20

舞踊認知の因子分析的研究Ⅱ一舞踊分類の試み 金城

光子・大城宜武 体育学研究22-2

舞踊と世界観 山口昌男 ダンスワーク20

スペクタクルとしての舞踊 渡辺淳 同上

シンポジウム・舞踊学の課題Ⅰ 上林澄雄・石福恒雄

松本千代栄 同上

シンポジウム・舞踊学の課題Ⅱ一舞踊美の特質 佐藤

俊子・市川雅・浦山政雄 同上

舞踊の表象と定義一運動表象に基く舞踊の概念構造

上林澄雄 同上

芸能の原型一古態芸能の構造関連と体系一 上林澄雄

芸能6月

文芸と芸能のもう一つの随想1~9 郡司正勝 国文学4~12月

逍遙の「舞踊」という語 郡司正勝 坪内逍遙研究資料7

沈思する舞踊について一パレリーの舞踏論を手がかり

に 遠山立 詩の世界10月

動きの世界1~3 若松美黄 女子体育10~12月

稽古を始める前に 石井清子 女子体育12月

舞踊年表 如月青子 芸能1~12月

## <芸術(一)>

能と狂言 金井清光 明治書院

武原はん写真集 清水三郎 求龍堂

日本舞踊全集1 日本舞踊社編 日本舞踊社

鹿のかげ筆 花柳芳兵衛 白川書院

柳緑花紅 花柳寿輔 善本社

鯉三郎百話 西川鯉三郎 中日新聞社

七世坂東三津五郎舞踊芸話 利倉幸一編著 演劇出版社

特集・世阿彌<能の美学> 解説と鑑賞2月

特集・老松 観世1・2月

特集・吉野天人 観世3・4月

特集・当麻 観世6月

特集・薪能 観世7・8月

特集・俊寛 観世9・10月

特集・船橋 観世11・12月

かぶき舞踊まで28~31 郡司正勝 日本舞踊3・9・11・12月

舞と儼 目代清 ダンス・ワーク20

吉志舞と阿部氏 大橋信彌 芸能史研究57

多聞院文書の神楽史料 渡辺伸夫 民俗と歴史4

舞楽楽曲の伝承話と「還城楽物語」の成立 麻原美子 芸能7月

舞楽二分法の形成 井浦芳信 『芸能と文学』笠間書院  
能の基本型(仕舞)の運動形態学的研究(その一、序論)  
那須高之助 東京女子体育大学紀要12

式三番考 後藤淑 金剛98

幽玄序説一世阿彌「幽玄」再考一 味方健 立命館文学、379~381

「班女」余響 徳江元正 国語と国文学7月

薪猿楽の変遷 表章 観世7・8月

観阿彌活躍直前の猿楽能一白人演能資料を中心として一  
井浦芳信 語文論叢5

続薪能見聞記 小林健二 芸能7月

武江年表と能楽 古川久 宝生5~7月

狂言の舞歌の変遷一その機能をめぐって一 伊藤茂  
語文33

「老松」考一付・飛梅・追松のこと一 堀口康生 観世1月

作品研究「吉野天人」 西野春雄 観世3月

作品研究「俊寛」 島津忠夫 観世10月

作品研究「船橋」 小田幸子 観世11月

養老とその周辺 鳥居明雄・佐藤健一郎 宝生1~3月

采女とその周辺 鳥居明雄・佐藤健一郎 宝生4~6月

生田敦盛とその周辺 鳥居明雄・佐藤健一郎 宝生7~9月

紅葉狩とその周辺 鳥居明雄・佐藤健一郎 宝生10~12

月  
 女舞考一宮川長春筆「風俗図巻」を中心に一 諏訪春雄  
 国語国文論集 6  
 彌之助踊考一奴踊と小坊主と一 板谷徹 芸能史研究 56  
 初期変化物の形成とからくり・手妻の影響 板谷徹 近  
 世文芸研究と評論 12  
 舞踊名言集成 7~18 郡司正勝 邦楽と舞踊 1~12月  
 幕末嘉永七年のおどりの譜一『妓楽踏舞譜』について一  
 丸茂美恵子 舞踊研究 4  
 「舞踊の技術」の序説として 1~2 目代清 舞踊研究  
 1~2  
 振付の美学 花柳芳次郎 舞踊研究 1~4  
 舞の系譜(一)~(二) 垣田昭 舞踊研究 3~4  
 舞踊曲を聞きなす 6~17 上林澄雄 邦楽と舞踊 1~  
 12月  
 舞踊参考室 日本舞踊  
 四季三葉草 松本亀松 1月  
 梅の栄 新谷誠太郎 2月  
 君が代松竹梅 新谷誠太郎 3月  
 すり鉢・聞の扇 新谷誠太郎 4月  
 地唄山姥 新谷誠太郎 5月  
 水仙丹前 新谷誠太郎 6月  
 高野物狂 長田午狂 7・8月  
 地唄黒髪 長田午狂 9月  
 菊の栄 長田午狂 10月  
 古道成寺 長田午狂 11月  
 鞍馬山(上) 松本亀松 12月  
 踊の心 邦楽と舞踊  
 夕月船頭 目代清 7~9月  
 保名 西形節子 10~12月  
 諸流の今と昔 江口博 日本舞踊  
 水木流 1~3月  
 正派若柳流 5~7月  
 花柳寿楽芸話 1~5 日本舞踊 9~12月  
 日本舞踊手法講座 30~41 猿若清方 日本舞踊 1~12月  
 日本舞踊の基本練習 7~18 花柳千代 邦楽と舞踊 1~12  
 月

## <芸術(二)>

ポリジョイ・バレエの技法 A・Xセレル 中本信幸  
 訳 西田書店  
 栄光のバレリーナーアンナ・パヴロヴァ 小倉重夫 富  
 山房  
 イサドラ・ダンカン一続わが生涯 I・ダンカン 小倉  
 重夫訳 富山房  
 イサドラ・ダンカン一芸術と回想 S・チェニー 小倉  
 重夫訳編 富山房  
 ニジンスキーの芸術 G・ウィットウォース 馬場二郎訳  
 現代思潮社  
 その後のニジンスキー R・ニジンスキー 市川雅訳  
 現代思潮社

モダン・ダンスのシステム V・プレストン 松本千代  
 栄訳 大修館  
 モダン・ダンス出航 日下四郎 木耳社  
 バレエと私の戦後史 小牧正英 毎日新聞社  
 特集・舞踏一身体空間としての言語 現代詩手帖 4月  
 特集・舞踏一魂の枢一 新劇 8月  
 モダン・ダンスの定義に関する研究 片岡康子 ダンス・  
 ワーク 20  
 舞踏と象形文字一マラルメのバレエ論のことなど一 渡  
 辺守章 学燈 2月  
 シンボルとしての舞踊一肉体のイメージ、ステップ、構  
 造について 市川雅 女子体育 6月  
 ディアギレフ・バレエ一1909~1914(一)~(三) 佐藤俊子  
 芸能 2~4月  
 モダンダンス技法の変遷一自然さと肉体の自由を求めて  
 一 片岡康子 女子体育 2月  
 動きでさぐる舞踊の歴史 女子体育 4~12月  
 1 原始の舞踊 片岡康子  
 2 古代の舞踊 //  
 3 中世の舞踊 //  
 4 官廷バレエ 伊藤洋  
 5 ロマンティック・バレエ 久保正士  
 6 世俗バレエエンパイヤ劇場について 市川雅  
 7 ディアギレフ・バレエ概観一1909から1929まで一  
 佐藤俊子  
 8 ディアギレフ以後 1 一体験的バレエ小史一 川路明  
 舞踊の病いと死期II 一芦川洋子の闇と光、あるいは、舞  
 踊師の筆 中村文昭 ダンス・ワーク 19  
 舞踊の病いと死期III 一武内靖彦独舞公演・闇の透視法の  
 法則 中村文昭 ダンス・ワーク 20  
 見ること見られることへの自由について ポストモダンダ  
 ンスの起点 荻生泰治 ダンス・ワーク 19  
 日本の舞姫物語・大原永子 富田真介 ダンス・ワーク  
 19  
 日本の舞姫物語・森下洋子 富田真介 ダンス・ワーク  
 20  
 現代舞踊作家論12・昭和50年代の若松美黄 上林澄雄  
 ダンス・ワーク 20  
 現代舞踊作家論・川村浪子 堀切叙子 ダンス・ワーク  
 21  
 前期の創作バレエ 江口博 ダンス・ワーク 21  
 体質的欠陥を乗り越えてなお名作のみられる創作バレエ  
 久保正士 ダンス・ワーク 21  
 日本の創作バレエ・1960より現代まで 桜井勤 ダンス  
 ・ワーク 21  
 日本バレエ界 最近の現状と未来一新しい動きを追って  
 一 高柳守雄 音楽の友 10月  
 病める舞姫 1~8 土方巽 新劇 4~10・12月  
 私の自叙伝 4~6 江口隆哉 ダンス・ワーク 19~21  
 畑中稔小論、プロセス・テーズ 江口正彦 ダンス・

<民俗>

- 祭りの情念 三隅治雄 三一書房  
 日本民謡大観九州篇(北部) 日本放送協会 日本放送出版協会  
 兵庫県民俗芸能誌 喜多慶治 錦正社  
 とやまの民俗芸能 伊藤曙賢 北日本新聞社出版部  
 ふくしまの民俗芸能 懸田弘訓 福島中央テレビ  
 茨城の芸能史 茨城文化団体連合・茨城県教育委員会編 茨城文化団体連合  
 かながわの祭と芸能 永田衡吉 神奈川合同出版  
 神がかり 萩原秀三郎 国書刊行会  
 獅子の平野 吉田智一 同上  
 花祭り 芳賀日出男 同上  
 丹後の笹ばやし調査報告書 京都府教育委員会編 大文字書林
- 特集・民俗芸能 文学3月  
 特集・ささら踊りと七夕行事 かながわの民俗芸能22  
 特集・盆・御霊まつりーふるさとの盆踊りー 雑人間談 歌五周年記念別冊号
- 民謡の分析から得るもの 富士波雄三 ダンス・ワーク20  
 民俗芸能研究の歴史 三隅治雄 文学3月  
 民謡研究の途の多様化 町田佳聲 同上  
 無形の民俗文化財の選択 文化庁文化財保護部 月刊文化財1月  
 獅子舞再考ー国立劇場民俗芸能公演に因んでー 西角井正大 芸能5月  
 獅子舞いの系譜 芳賀日出男 民族学1  
 奉納芸と余興芸ー地方定着の大神楽ー 中村茂子 芸能の科学8  
 神楽舞による荒神鎮め 高木啓夫 土佐民俗29  
 石西地方神楽考 渡辺友千代 郷土石見4  
 岐阜県石徹白の巫女舞 後藤淑 芸能1月  
 『山伏神楽』前後 本田安次 芸能11月  
 北辰祭祀としての伊勢大神楽試論 吉野裕子 芸能12月  
 「花祭」の実相と変化ー花祭研究(一)ー 宇野正人 国学院大学日本文化研究所紀要39  
 富山県宇奈月町法福寺稚児舞文献 伊藤曙賢 芸能史研究56  
 長滝の修正延年について 久野寿彦 岐阜大学教育学部研究報告・人文科学第25巻  
 能の発生ー巫女舞から能へー 本田安次 文学3月  
 儀式からまつりへー黒川能ノートー 真壁仁 文学3月  
 幸若舞と淡路人形浄瑠璃 高橋秀雄 月刊文化財2月  
 岩井の花取踊りー高岡郡窪川町興津ー 神尾健一 土佐民俗27  
 まつりとおどりー阿波の風流の一考察 檜瑛司 まつり通信198

- 念仏踊りと盆踊り 田中義弘 まつり通信198  
 九鹿のさんざか踊り・道しるべ 喜多慶治 まつり通信200  
 太鼓打芸を考える 西角井正大 芸能9月  
 健在なり野北中村の虎踊 熊谷肇 かながわの民俗芸能21  
 踊念仏と風流 五来重 文学3月  
 盆に踊るー夏の民俗芸能 高橋秀雄 季刊邦楽12  
 民俗演劇論ー万作芸をめぐるー 西角井正大 文学3月  
 沖縄の祭りと芸能1 当間一郎 歴史公論11月  
 男芸と女芸ー沖縄における舞踊技法の展開ー 三隅治雄 芸能の科学8  
 能と組踊の間ー「羽衣」と「銘苺子」ー 田畑博子 沖縄文化48  
 能と組踊との比較試論ー「道成寺」と「執心鐘入」ー 荒川さち子 沖縄文化48  
 沖縄の踊りの表現特質に関する研究(2)ー古典舞踊「諸屯」についてー 金城光子 琉球大学教育学部紀要20  
 沖縄の踊り(2) 古典舞踊「諸屯」ー舞踊譜の体系化をめざしてー 金城光子 琉球大学教育学部紀要20  
 南島の生産叙事歌をめぐるー歌譜・歌謡・芸能ー 小野重明 文学3月  
 沖縄の民俗芸能の特質 当間一郎 文学3月  
 芝居と民衆ー沖縄芝居を支えるもの 船越義彰 文学3月  
 <資料>「包丁者狂言」ー八重山諸島の琉球狂言 永積安明・宮良安彦 文学3月
- <教育>  
 舞踊用語に関する研究ー創作舞踊の構成用語を中心として 松本千代栄・山田敦子・辻元早苗 ダンス・ワーク20  
 言語と舞踊表現 松本千代栄・川口千代・島内敏子・柴真理子 ダンス・ワーク20  
 心拍数からみたダンスの作業強度 高橋美智子 女子体育8月  
 創作ダンスのイメージに関する一考察 田能村芳香 日本女子体育大学紀要7  
 舞踊における表現性と性格特性との関係(1)ーポーズに見られる性格特性 斎藤千代子 静岡大学教育学部研究報告・自然科学篇27  
 学校教育における舞踊の研究ー学校ダンスの実態と問題点 吉田芳枝 山口大学教育学部研究論叢・第3部26  
 集団の凝集度がダンスの創作に及ぼす影響について 林悦子他 武庫川女子大学紀要・体育学編24  
 今後の舞踊教育に望む 近藤英男 女子体育2月  
 舞踊教育の比較研究ー在外研究の報告から 松本千代栄 女子体育3月  
 学校におけるダンス指導①小学校低学年 坂元照 女子体育8月  
 学校におけるダンス指導②小学校高学年 伊藤佐江子 女子体育9月

ダンスの指導について 井上都美子 女子体育 11月  
 楽しい創作ダンスのための学習課題の設定 石黒節子  
 体育科教育 2月  
 創作ダンスの学習指導一模倣から創造への過程 川口千  
 代 体育科教育 5月  
 幼児のリズム運動をめぐって 神戸幼児のダンス研究グ  
 ループ 女子体育 2月  
 東京都八丈島末吉小学校の実践記録-12 菊地浄 体育  
 科教科 6月  
 運動のイメージをどうやって育てるか 美二三枝子 女  
 子体育 1月

## 外国の舞踊書から

\*舞踊専門の外国雑誌 Dance Magazine, Dance & Dancers,  
 Dancing Times, Viltis, Pour la Danse の新書紹介欄に  
 取り上げられた 1977 年刊行の舞踊関係の単行本のなか  
 から、重要と思われるものを、紹介の抄訳とともに掲げる。  
 (山田教子・板谷 徹)

**THE CONCISE OXFORD DICTIONARY OF BALLET,**  
 By Horst Koegler, 583 pp. New York, Oxford Uni-  
 versity Press, 1977

この辞書は、実用的で確かな道具となるようにつくら  
 れている。挿絵は1図もなく、5000以上の事項が掲げられて  
 いる。(Anatole Chujoy と P. W. Manches ter の編集した、ダ  
 ンス・エンサイクロディア第2版と比べるといくらか少ないが、  
 G. B. L. Wilson のバレエ事典は、約4000の事項である。)

この辞書の特徴は、ニコライ・フォレ(ソ連のアバン  
 ギャルドの振付家)に関する事項、図書目録の漸新さ等  
 にあると思われる。

**THE NATURE OF DANCE: An Anthropological  
 Perspective,** By Roderyk Lange,  
 Macdonald & Evans, Ltd.

Lange は、あらゆる文化や異った哲学の中にあらわれ  
 るダンスを、生物学的な必要性の観点から、研究をすす  
 めている。

この著の中で二つの重要な章は、「動きがいつダンス  
 になるか?」と「ダンスが芸術になる」である。

Lange は現代の精神医学がダンスの治療的側面(解放、  
 エネルギーの集中、病をいやす)を充分に探求していな  
 いことを指摘している。

**DANCE HERITAGE FOCUS ON DANCE: VIII** Pub-  
 lished by the American Alliance for Health,  
 Physical Education and Recreation 1201-16 th  
 st. N.W. Washington D. C. 20036

Drs. E. Carmel Imel and Gwen K. Smith 編

この巻には、舞踊の各分野における卓越した人々によつ  
 て著わされている、舞踊のあらゆる側面についてが含ま

れている。

Ann Barzel, Leona Holbrook, Marian Van Tuyl,  
 Margaret H' Doubler, Hanya Holm, Bella Lewitzky  
 等の20人の執筆者の各々が、各種の舞踊の形態につい  
 て、注目すべき論説及諸課題を述べている。

**KNOWING IN MY BONES,** By Ruth Foster, A &  
 C Black, London, 131 pp.

Ruth Foster は、その著について、「動きの雰囲気、  
 動きの表現的特質、そして、動きのひきおこす内的感情  
 についての調査である。」と述べている。Foster と俳優  
 舞踊家、演出家、教師、学生達との、動き、スポーツ、  
 舞踊、演劇、学校における舞踊についての会話は、自己  
 表現と自己同一性の発展の為に、動きの果たす役割につ  
 いてを明らかにすることを努めている。

**DANCE AS A THEATRE ART,** By Selwa Jeanne  
 Cohen, Dance Books

Cohen 博士のこの著では、1581年から現在に至るまで  
 の舞踊の歴史を読みとることができる。その中には、  
 1582年のパリにおける、バレエ・コミック、ドゥ・ラ・  
 レヌの解釈、Weaver, Noverre, Bournenville,  
 Gautier, Petipa, Duncan の著作からの抜粋、そして、  
 今日の舞踊家の Cunningham や Meredith Monk までが含  
 まれている。

**A MANUAL OF THE THEORY AND PRACTICE OF  
 CLASSICAL THEATRICAL DANCING, Cecchetti  
 Method** By Cyril W. Beaumont & Stanislas  
 Idzikowski, Imperial Society of Teachers of  
 Dancing

我々の間で「聖書」として親しまれている、この手引  
 書の再版がついに出了。原版の絵を、Lesley Colliel  
 と、Mark Silver の写真に換えている。

この本は、ダンスの手引書の中で歴史的な位置を占め  
 るものであり、Rudolph Schwade による原版の挿絵をそ  
 っくりそのままに再版すべきである。この非常に価値の  
 ある練習法で培かれる力強さや強靱さについてが、写  
 真では正確に伝達されえないからである。

**FREDERICK ASHTON AND HIS BALLETS** By  
 David Vaughan, New York, Alfred A. Knopf,  
 522 pp., \$ 25.00

Ashton は Vaughan から、価値ある本を送られた。こ  
 のことは、両者への賛辞である。この本は(本文 522 ペー  
 ジ、さし絵 406 ページ、そして、かなりの量の付録から  
 なっている。) Ashton の作品をわかりやすく評価しており、  
 彼の私生活については多くを語っていない。

Vaughan は、最後の分析の中で、Ashton の振付を、つ  
 まり、完全に独立したイマジネーションと、ダンサーへ  
 の依存度を“説明する”ことは不可能なことであると、

述べている。

**Beauté de la Danse** par Gilberte Courmand  
aux Editions Gauthier Langueureau

この書は、舞踊の理論的な歴史ではなく、舞踊の多様な表現と変容を明らかにする図版や未紹介の原資料と、時とともに忘れさられた舞踊芸術の宗教的・神秘的・美的・社会的価値とを結び合わせようとするものであると、著者はその意図を述べている。

伝記や技法や挿話などを脚注とし、豊富な図版を取り入れた、資料の適確な選択が、本書の価値を高いものにしてている。

**Ballet et Danse Moderne** aux Editions Ferrand  
Nathan

この本は、モダン・ダンス全体を記述しようとするのではなく、最近数年間における、イギリスのロイヤル・バレエ、ポリショイ・バレエなどの伝統的な活動、またMartha Graham、Merce Cunningham、Paul Taylor の集団などのように現代的な活動をする世界の主要なグループを扱ったものである。

本書の執筆陣は、Rudi Van Dantzig、Maurice Béjart、Lincoln Krstein、Nadia Nerina、John Lanchbery ほかの専門家達である。

**Le Ballet de l'Opera de Paris** Par Ivor Guest  
édité par le Théâtre de l'opéra et  
diffusé par Flammarion

わが国の演劇を支持し、1661年のLouis XIVのバリオペラ座創立以来支援した人々にとって待望の書である。

国際的声望のある舞踊批評家かつ歴史家の著者Ivor Guestは、10章の本文で、偉大な舞踊作家・魅力的な代表作によって3世紀間の舞踊・装置・衣裳の進歩を彩る。

本書はまた、オペラ座にかけられたバレエの演目、舞踊家・バレエ教師・招かれた芸術家などの資料を含み、豊富な図版も添えられている。

**La Danse Moderne — d'Isadora Duncan à  
Twyla Tharp** par Jacques Baril aux Editions Vigot

この書は、フランスにおいもモダン・ダンスについての総合的な研究書をもちたいという要望に応えたものである。

著者は5つのテーマについて、舞踊作家の伝記・技法様式の分析・舞踊法・代表作・創造の基盤を述べる。

— Isadora Duncan、Loie Fuller など第1世代のアメリカの先駆者。

— Martha Graham、Doris Humphrey などアメリカにおけるモダン・ダンスの創始者、José Limon、Lester Horton など他のシステムの創始者、Jane Dudley、Sophie Maslow などの独立した舞踊作家。

— Merce Cunningham、Paul Taylor、Alwin Nicolas など第3世代の舞踊作家。

— ヨーロッパにおけるモダン・ダンスの失墜者とシステムの創始者。

— フランス、スウェーデン、イギリスなど他国へのモダン・ダンスの移植。

**Anatomie appliquée à la Danse** par Georgette  
Bordier aux Editions Amphora

舞踊教師や舞踊家に推薦されるべきこの本で、舞踊の技法と解剖学の知識を有効に利用して、著者は、筋肉・腱・関節の働き・反応・相互作用を科学的に解明する。

純粹に学術的な方法で、著者はこの困難なテーマにおいて、芸術と美の誕生をわれわれに垣間みさせてくれる。

**Expression corporelle— langage du silence**  
par Claude Pujade—Renaud aux Editions ESF

身体的表現がしばしば誤解されていることが本書の動機となっている。自身の経験を踏まえて、著者は、演劇・マイム・舞踊における身体的表現を対照させる。舞踊についての分析はとりわけ興味深く、Martha Graham やMerce Cunningham のような偉大な舞踊作家が創り上げた理論から出発して、現代バレエが古典バレエに比して、いかに感情の表現より身体の再発見に向うか、また現代バレエが動きの根源への回帰に向い、情報の伝達ではなく感覚への直接の働きかけをなすかを著者は問うている。